

# 令和4年度 研究功労者表彰式

全国農業関係試験研究場所長会

令和4年6月24日（金） 三会堂ビル（石垣記念ホール）

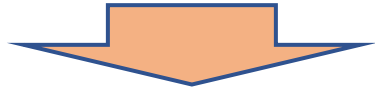
イチゴ主要病害の発生生態解明による効果的防除技術の確立  
～ 萎黄病、炭疽病、うどんこ病の防除技術 ～



佐賀県農業試験研究センター 稲田 稔

# ■佐賀県におけるイチゴ従来品種の課題

- ・収穫量がやや少ない
- ・厳寒期の食味低下
- ・(高齢化、産地間競争)

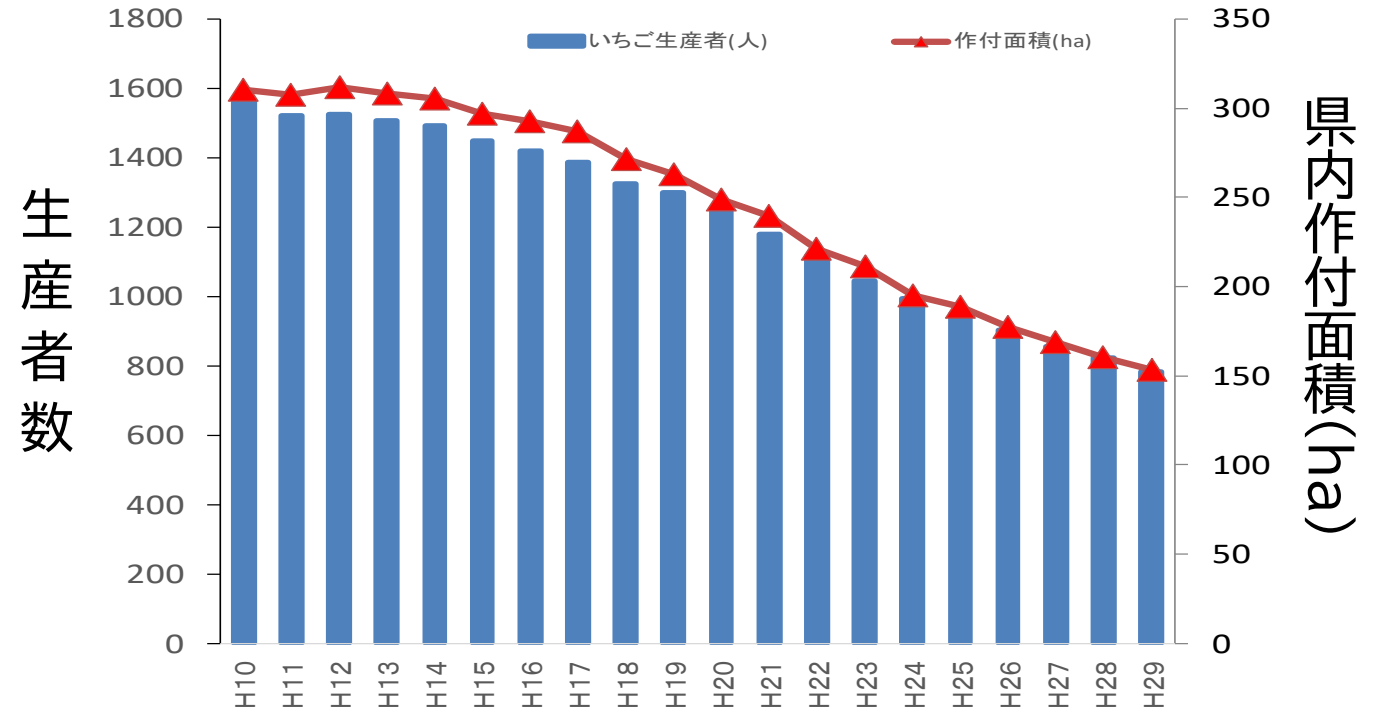


生産者・作付面積の減少

## ■新品種の育成・普及

- ・H30年 品種・商標登録
- ・課題を克服

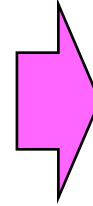
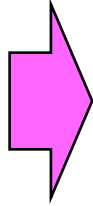
⇒ 県内の約9割で生産  
生産のV字回復へ





# ■佐賀県での促成栽培イチゴの栽培体系

育苗圃（春～秋）



本圃（秋～翌春）



## ■病害による甚大な被害

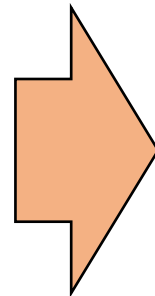
萎黄病



炭疽病



苗立枯れ



感染苗の本圃での発病



うどんこ病



# ■ 萎黄病の伝染源探索と防除対策

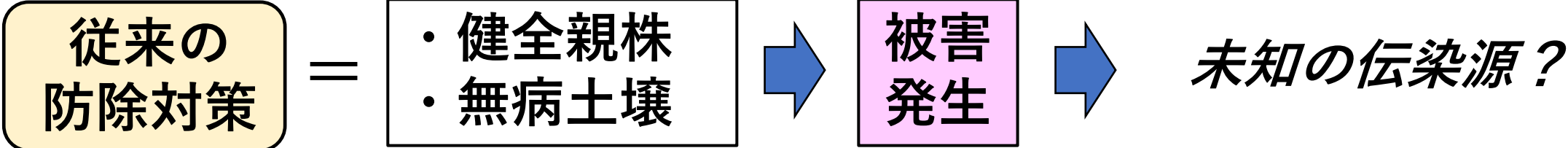


表 育苗圃での萎黄病菌の検出

調査対象	検出の有無
連年使用のポット	++
除草シート表面の土壌	+
棚(あみ面)	—
棚(支柱)	—
水路の水	—
圃場内の雑草	—

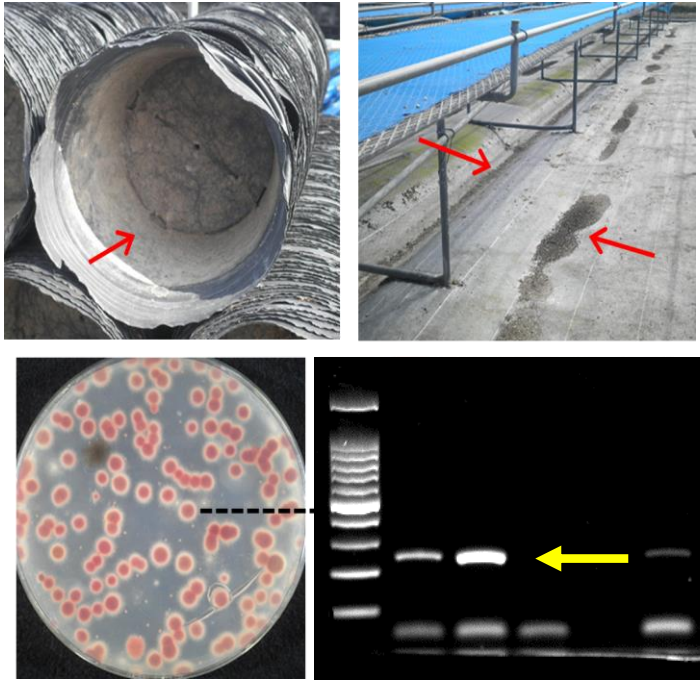


図 ポットおよび堆積土壌からの検出

新たな伝染源を確認

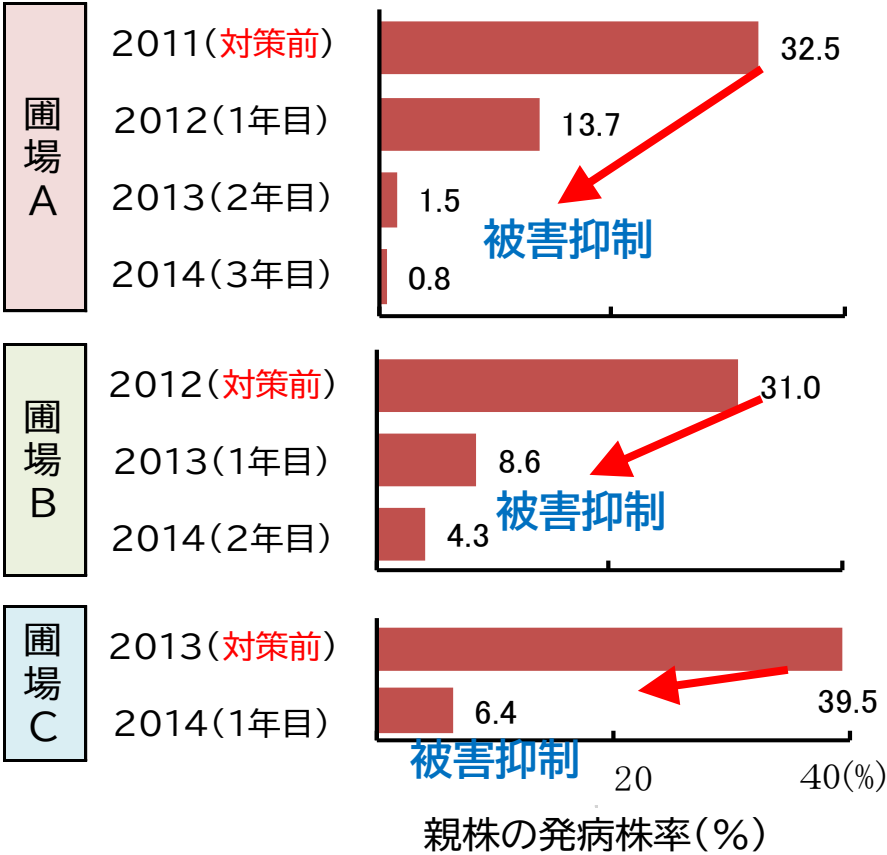
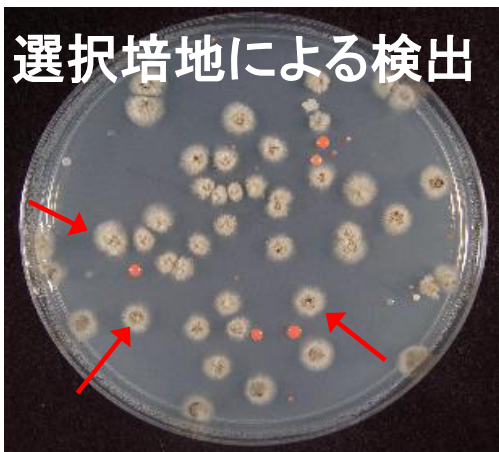
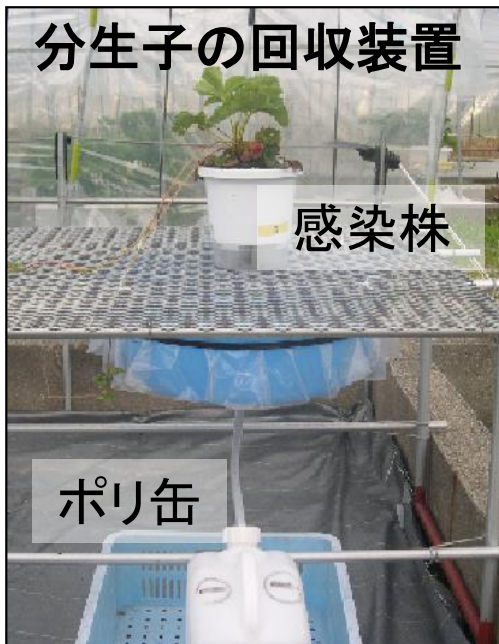
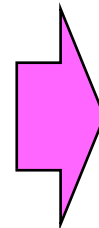


図 ポット更新と堆積土壌除去による防除効果

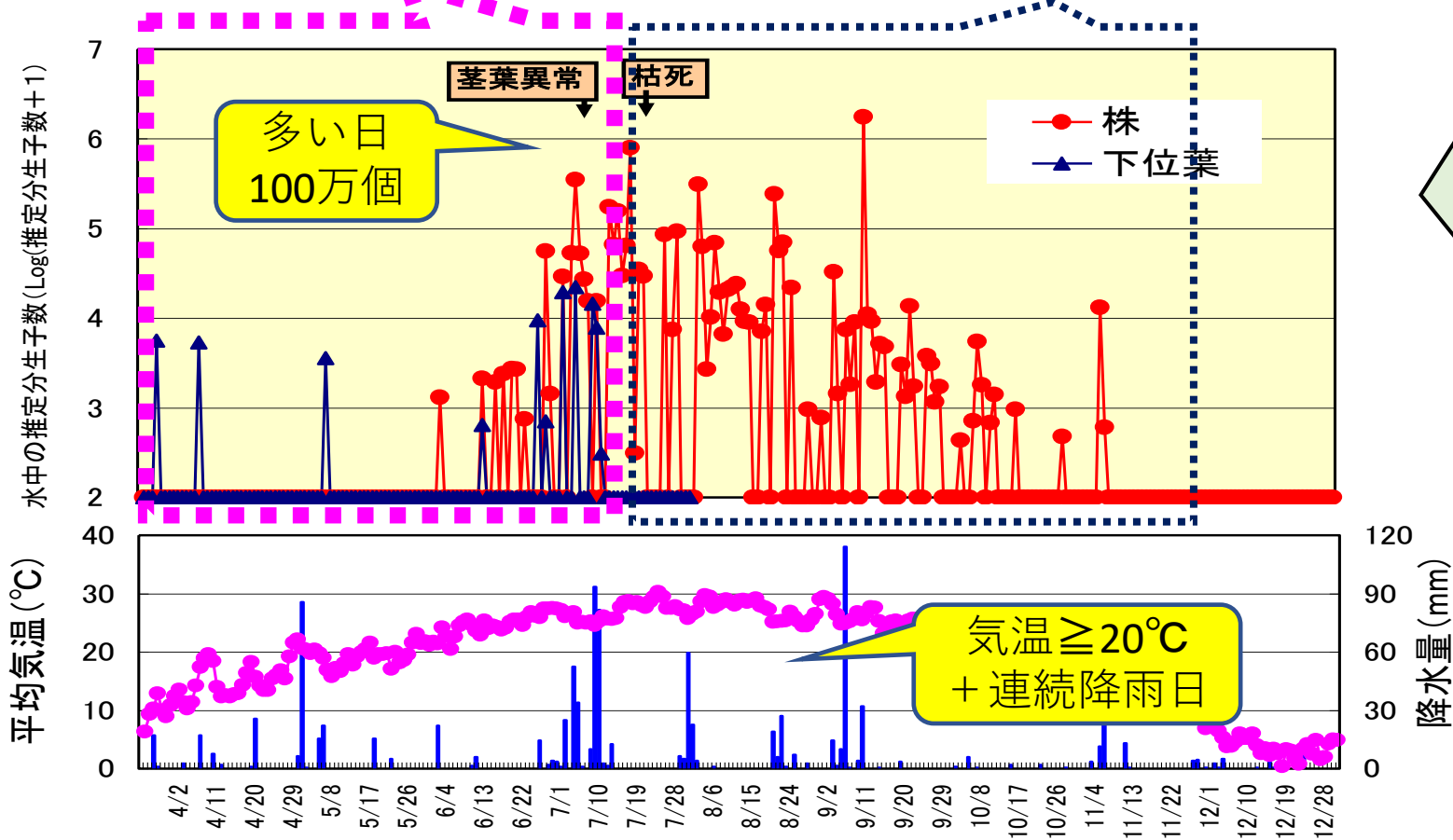
# 炭疽病菌の 伝染期間の把握



みかけ健全



発病

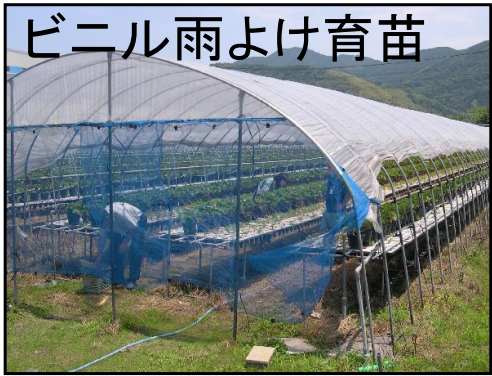


育苗期を通じた対策が必要

図 降雨及び灌水によって感染・発病株から飛散・流下したイチゴ炭疽病菌分生子数の推移(2005年)



# 防除対策の検討



ビニル雨よけ育苗



圃場内(現地)

表 ビニル雨よけと薬剤防除による苗での防除効果

試験区		防除価		
ビニル雨よけ	薬剤防除	1999	2000	2001(年)
全期間	全期間	93	91	72
親株のみ	全期間	85	—	—
苗のみ	全期間	93	82	—
苗のみ	苗のみ	—	30	—
全期間		45	66	40
	全期間	70	72	46
無処理の発病苗率(%)		49.3	48.2	50.7

育苗全期間の組合せが有効

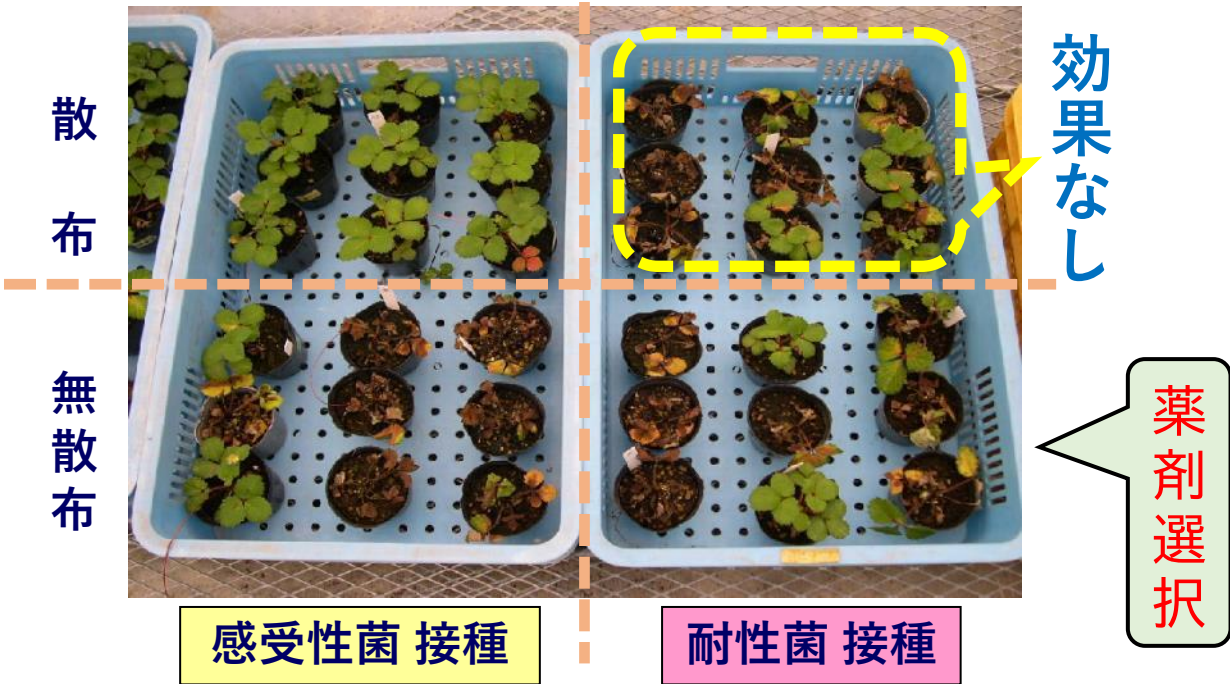


図 ストロビルリン系剤耐性菌の確認



図 空気伝染による発病の確認

発病株早期除去

# ■うどんこ病の防除対策の検討

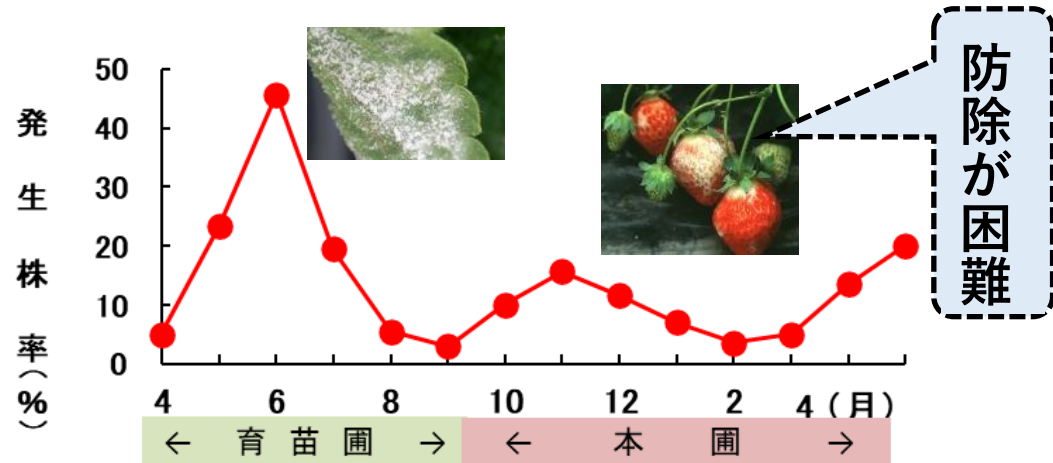


図 イチゴうどんこ病の発生推移

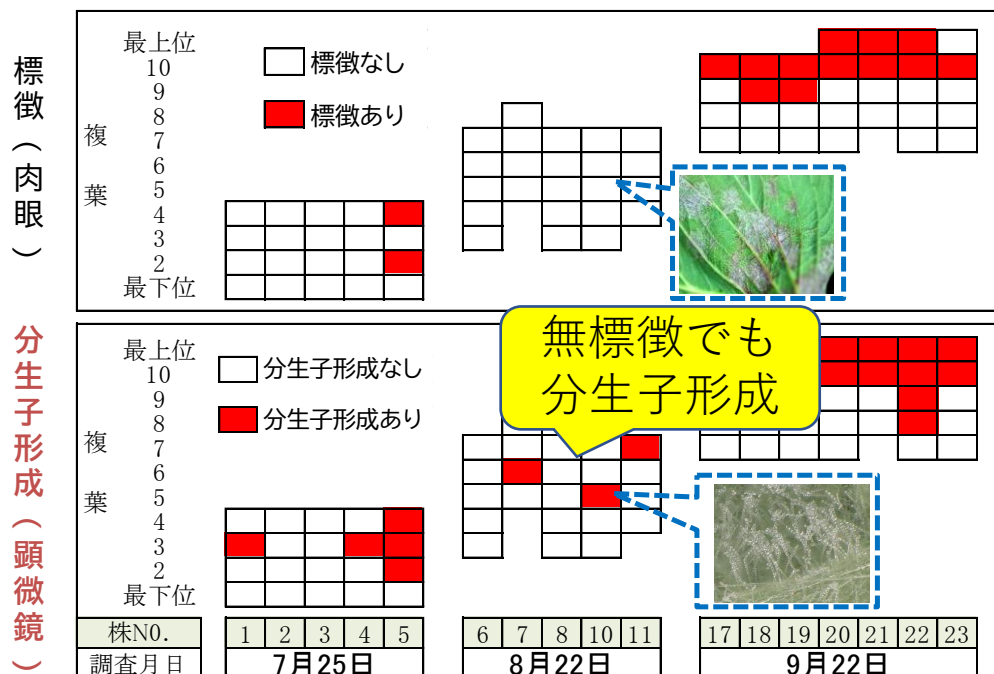


図 イチゴうどんこ病の標徴と分生子形成の推移(2011)

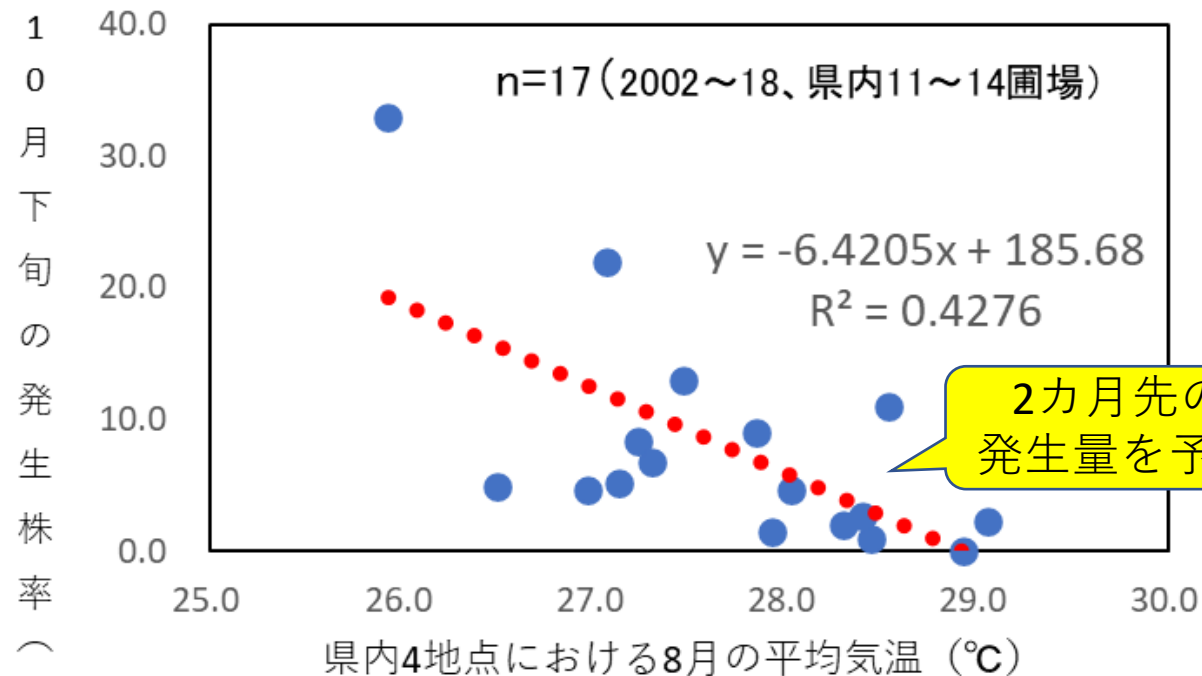


図 8月の気温と10月の発生株率の関係

○育苗期の薬剤防除  
○発生予察への利用

# イチゴの生産性向上

⇒ 病害の発生生態解明による効果的防除技術の確立

